

令和2年度 各教科 努力目標及び具体策

《国語科》

努力目標（評価の観点）	具体策
基礎学力の定着を図る	現代文単語や古文単語などの小テストを繰り返すとともに事後指導を徹底し、語彙力を向上させる。
	学習方法の指導を徹底する。
	各学年と連携しつつ、校内漢字テストを通して日本語を使いこなす能力を高め、漢字能力検定にも意欲的に取り組ませる。
自ら考える学習の充実を図る	生徒一人一人の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践を行う。
	学校図書館を利用した授業実践に取り組むとともに、幅広く読書する態度及び自ら調べる態度を育成する。
	辞書の効果的な利用法を指導し、自主的に活用できるようにする。

《地歴・公民科》

努力目標（評価の観点）	具体策
充実した授業により学習内容への興味関心の涵養を図る	授業展開を工夫するとともに、資料等の教材を効果的に活用することにより、わかる授業に努める。
	時事問題など科目横断的な視点からテーマを設定することで知的好奇心を刺激する。
学力の向上と進路実現の支援に努める	話し合いや発表など、生徒の主体的な活動を重視し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を行う。特に課題研究では、「表現力」の育成を図る。
	小テストやワークノートの活用、問題演習などで基礎力の定着をはかる。また、論述による出題などを工夫する。

《数学科》

努力目標（評価の観点）	具体策
基礎学力を養成し、その定着をはかる。	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、「単元テスト・小テスト」の実施や、定期テスト・模擬試験などの「解き直し」を積極的に行わせることで、基礎学力の定着をはかる。
家庭学習の習慣化をはかる。	1年次生は初期指導を利用し、2・3年次生も最初の授業でオリエンテーションを行い、学習方法を丁寧に指導することで、より効率的な家庭学習の実現を目指す。 週末課題や日々の課題などを与え、提出期限を守って取り組むよう指導することで、持続的な家庭学習を促す。
進路に応じて実力の向上をはかる。	課外等において模擬試験の問題を振り返るなど、計画的に対策を行い、考える力を養成する。

《理科》

努力目標（評価の観点）	具体策
基礎学力を養成し、進路に応じて実力の向上を図る。	課題の提出・小テスト等を通して基礎的な力を定着させる。
	指導方法を工夫し、校外模試の成績向上を図る。
	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に取り組む。
実験・観察や科学的講座への参加を通して興味関心を持たせるとともに理解力を養成する。	実験・観察のポイントを指示して、生徒が主体的に活動出来るようにする。
	教育機器（コンピュータ、プロジェクター、パワーポイントなど）を活用する。
	大学など諸機関の行事等を活用し、体験学習などに積極的な参加を促す。

《保健体育科》

努力目標（評価の観点）	具体策
健康な心身と豊かな人間性の育成する。	自主的・自発的な運動への取り組みを習慣化させる。
	健康・安全についての知識と理解を深めさせ、自ら進んで健康の保持増進や安全に関する実践力に取り組める習慣を確立させる。
規律ある集団行動の指導の徹底と体力の向上に努める。	授業への集合を早くさせ、定められた服装・隊形で整列し、授業を積極的に行わせる。
	毎時間、補強運動を行わせ、体力の向上に努める。

《芸術科》

努力目標（評価の観点）	具体策
生徒一人ひとりが探究心を持って主体的に芸術活動に取り組めるよう支援する。	個々の自己表現の幅を広げるために、楽典をもとに基礎知識の習得と並行して、ソロ演奏、合奏や合唱を通して、自発性や他を感じながら合わせる協調性を育てる。また、様々な時代様式の音楽に触れることで、他国の文化を学び、広い視野を持つ音楽指導をする。（音）
	各題材の目的や方法、制作の手順や要点を短時間で要領よく理解させるため、授業の導入時に必要な参考事例や素材・用具は必ず事前に揃えておき、教科書付録のビデオや図版を活用するなどして視覚的・直感的に理解しやすい提示資料や配付資料を用意する。（美）
	生徒自身が技術・知識の獲得感を少しでも得られ表現活動に意欲的に取り組めるようにするため、授業全体から個々の人物理解に努めて特性に沿った多面的な指導と細やかな習得確認を行う。また、創作時にワークシートを活用するなど内観の機会を設けて主体性を育てる。（書）

《英語科》

努力目標（評価の観点）	具体策
予習→授業→復習のサイクルを確立させ、計画的・継続的な学習習慣を身につけさせる。	授業において随時辞書や参考書の活用法を指導し、自主的な「調べ学習」ができるようにする。
	既習事項を定着させるために、適宜確認テスト等を実施し、復習の時間を確保もしくは習慣をつけさせる。
発展的な学習を通し、希望進路実現を目指して実力の向上を図る。	課外講座や週末課題・長期休業課題の工夫や校内英語テスト取り組みへの意欲づけなど、各自の習熟度や進路実現に合わせた学習活動を支援する。
	新しい共通テストに向けて、GTECの受験を奨励し、各自の進路実現や生涯学習としての英語学習への動機づけとする。

《家庭科》

努力目標（評価の観点）	具体策
各科目における基本的知識・技術の定着を図る。	生徒の実態に合った適切な教材を選択し、基本的な知識・技術を身につけさせ、実生活に活かせるようにする。
	実験・実習に積極的に取り組み、生きる力を養う。
実践的な学習意欲を養い、社会における応用力を身につけさせる。	技術の向上を図り、家庭科技術検定等に積極的に取り組ませる。
	教科にかかわるボランティア活動や福祉体験への参加を通して、地域社会に貢献できる人間力を育成する。

《商業科》

努力目標（評価の観点）	具体策
生徒一人ひとりの進路に即した資格取得の実現を図る	わかる授業を展開し、学習意欲を喚起し、主体的に資格取得に取り組む態度を育成する。
	進路実現に必要な上級資格の取得において、継続的・支援的指導を行い、自己を高める能力を養う。
基本的な情報処理能力・技術を身につけさせる	生徒の実態にあった教材を活用し、規範意識を高め、情報社会に対応できる基本的な知識や技術を身につけさせる。
	コンピュータ機器を効果的に（プレゼンテーションも含めて）活用できる能力を育成する。